

# 「日本における電子書籍の流通・利用・保存 に関する調査研究」

## ～電子書籍概論～

---

2009年3月9日(月)

国立国会図書館 調査研究報告会

湯浅 俊彦

## はじめに: 本調査研究の背景および目的

---

- 近年、出版コンテンツのデジタル化が急速に進展し、「電子書籍」への注目が高まっている。

## 電子書籍を提供する図書館サービスの登場

---

- 2007年11月、「千代田Web図書館」の電子書籍貸出サービス開始。
- 2007年11月、紀伊國屋書店NetLibraryに和書コンテンツ搭載。
- 著作権の保護期間が満了していない日本語の電子書籍をインターネット経由で提供する図書館サービスが登場。

# ケータイ読書の出現

---

- 一方、「魔法のiらんど」などケータイ用ネットサービスに発表された「ケータイ小説」が主に若年層を中心に広く受容され、ネットでのアクセス数の多いケータイ小説が逆に単行本化され、2007年には大手取次調べによる文芸部門ベストセラーの1位から3位を独占した。
- 毎日新聞社の「第61回読書世論調査」(2007年6月調査)によると、「ケータイ小説」を実際に読んだ媒体について10代後半女性では「携帯電話」51%、「書籍」49%と、本ではなく携帯電話で読む人の方が多いという逆転現象が起こっている。

## ケータイ読書の受容

---

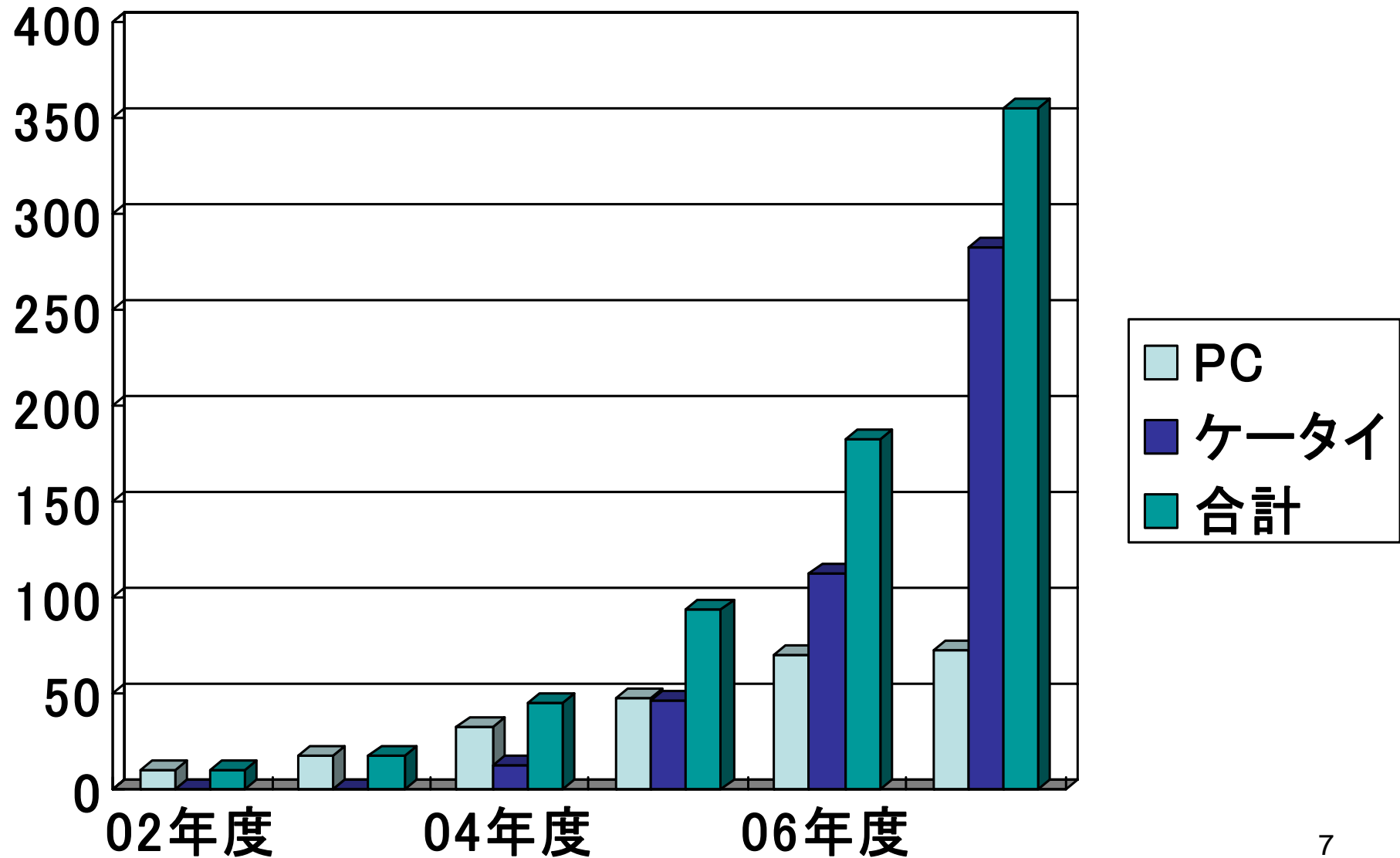
- また毎日新聞社と全国学校図書館協議会の「第54回学校読書調査」(2008年6月調査)では、「ケータイ小説」を実際に読んだ媒体について、「携帯電話」が小学生5%、中学生8%、高校生33%であるのに対して、「出版された本」が小学生10%、中学生28%、高校生13%、と高校生になると本よりも携帯電話で読む比率が高まってきていることが明らかになった。

# 電子書籍市場の拡大

---

- さらに『電子書籍ビジネス調査報告書 2008』（インプレスR&D、2008）によると、2008年3月末時点でのPC向け、ケータイ向け電子書籍のタイトル数は電子書籍販売サイト間の重複を除いて約15万点。
- 市場規模はPC向け72億円、ケータイ向け283億円の合計355億円と推計され、調査が開始された2002年度10億円から、2003年度18億円、2004年度45億円、2005年度94億円、2006年度182億円、2007年度355億円とじつに急速な市場拡大を続けている。

# 電子書籍市場の推移



# 本調査研究のテーマ設定

---

- 電子書籍の量的拡大とコンテンツの多様化、そして読者の受容という状況を踏まえ、
- 国内における電子書籍の流通・利用・保存の現況について、図書館とのかかわりも視野に入れながら調査を行った。
- 国内の各種図書館や関連機関、出版社、コンテンツプロバイダー、携帯電話キャリアなどのステークホルダーに対して、現時点での課題と今後の対応への知見を提供する。
- 併せてNDLにおけるデジタルアーカイブや納本制度、全国書誌などの業務を検討する際の資料とする。



# 電子書籍の定義について

---

- 「電子書籍」はほかにも「eブック」「e-book」「電子ブック」「電子本」などさまざまな名称がある。
- 定義することはきわめて難しい。

# 電子書籍の範囲をどうするのか？

---

- 例えば、次のようなものは？
- 1. 電子技術を利用してディスプレイで読む電子辞書
- 2. 単行本など紙で出版された資料をデジタル化し、オンライン配信で提供されるもの
- 3. 「ケータイ小説」のようにもともとデジタルコンテンツ(ボーン・デジタル)としてオンライン配信で提供されるもの

# 電子書籍とは？

---

- 4. 貴重書や郷土資料など図書館の所蔵資料をデジタル化したもの
- 5. 「Yahoo!Japan辞書」のように検索エンジンに搭載されたもの
- 6. 「JapanKnowledge」、「化学書資料館」、「NetLibrary」のように出版されたコンテンツを統合的に検索し、閲覧することができるもの

# 電子書籍の統計

---

- 『電子書籍ビジネス調査報告書』は、インプレスR&Dが2003年から刊行している電子書籍市場の調査報告書である。
- 最新版である『電子書籍ビジネス調査報告書2008』（2008年7月刊）では、10の主な電子書籍販売サイト（PC向けとケータイ向けの両方を手がけている電子書籍販売サイト）が販売しているタイトル数は単純合計で約28万点、それ以外のPC向け電子書籍販売サイトやケータイ向け電子書籍販売サイトのタイトル数を加算すると約32万点、各サイト間の重複を差し引いたタイトル数は約15万点と推定されるとしている。

# 『電子書籍ビジネス調査報告書 2008』収録の10サイトのタイトル数

---

□ 1.電子書店パピレス	80,066	
□ 2.楽天ダウンロード	44,500	
□ 3.DMM.Com	39,000	
□ 4.ビットウェイブックス	31,200	
□ 5.eBook Japan	20,983	
□ 6.PDABOOK.JP	20,000	
□ 7.Space Townブックス	18,400	
□ 8.Yahoo!コミックス	12,400	
□ 9.電子文庫パブリ	9,267	
□ 10.ウェブの書齋	5,101	合計280,917点

## 『出版年鑑2008』の電子書籍数

---

- 一方、『出版年鑑』（出版ニュース社）では2002年版から電子書籍の収録を開始し、最新版の『出版年鑑2008』では「電子書籍」21,364件が収録されているが、これは多巻物を1件とカウントするためで、点数にすると78,675点である。

# 『出版年鑑2008』の電子書籍

---

- 1. ウェブの書齋
- 2. SharpSpaceTown
- 3. 電子文庫パブリ
- 4. eBookJapan
- 5. どこでも読書
- 6. つや缶あり
- 7. 電子書店パピレス
- 8. Bitway-books
- 9. Pdabook
- 10. いまよむ

# 『出版年鑑2008』の電子書籍

---

- ただこの数字は電子書籍を販売している10サイトから情報提供を受けたものであり(『電子書籍ビジネス調査報告書』とは異なるサイトも含まれる)、タイトルとフォーマットごとのサイト間の重複は除いていない。
- 『出版年鑑2008』に収録された紙の新刊書籍は76,978件で点数にすると80,595点である。
- 電子書籍の各サイト間の重複率が不明であるので単純な比較はできないが、収録されていない電子書籍販売サイトを考慮すると電子書籍の点数は紙の書籍に匹敵する勢いで増加していると推計される。



# 電子書籍の統計とは・・・

---

- 第1に、日本の出版統計の世界では「電子書籍」は実際に電子書籍を販売しているサイトからの集計であること。
- 第2に、統計によって収録しているサイトはまちまちであり、あるサイトを取り上げて、別のサイトを取り上げなかった客観的な理由を説明するのは難しそうなこと。
- つまり、ここには収録されていない「電子書籍」群が多数存在しているということである。

# 本調査研究で扱う電子書籍の範囲

---

- 報告書では、あらかじめ「電子書籍」を厳密に定義し、統計を用いて現状分析するのではなく、
- 日本国内のステークホルダー（出版社、コンテンツプロバイダー、携帯電話キャリア）にインタビュー調査を行い、
- 出版社アンケートを実施することにより、
- 産業的実態から「電子書籍」を定義し、現状分析することを調査研究の方向性として位置付けた。
- ただし、電子辞書、検索エンジンに搭載されるものは含まない。

# 1. 出版社の動向

---

- 電子出版としてのCD-ROM
- 「電子ブックプレイヤー」と「電子ブック」の登場
- CD-ROM出版その後の展開
- 「電子書籍コンソーシアム」の実証実験
- 「電子文庫パブリ」と出版社
- 読書専用端末と「電子書籍元年」
- 読書専用端末から汎用型デバイスへ

## 2. 携帯電話キャリアの動向

---

- 携帯電話向け電子書籍市場の急成長
- 携帯電話キャリアの動向
- 「魔法のiらんど」とケータイ小説

### 3. 無料の「電子書籍」サイトの動向

---

- 「青空文庫」
- 「電子文藝館」
- 「Googleブック検索」と絶版本の有料データベース化の動向

## 4. コンテンツプロバイダーの動向

---

- コンテンツプロバイダーの事業
- 電子書籍における取次事業の展開
- コンテンツプロバイダーと読書
- 学術系の電子書籍サービス